



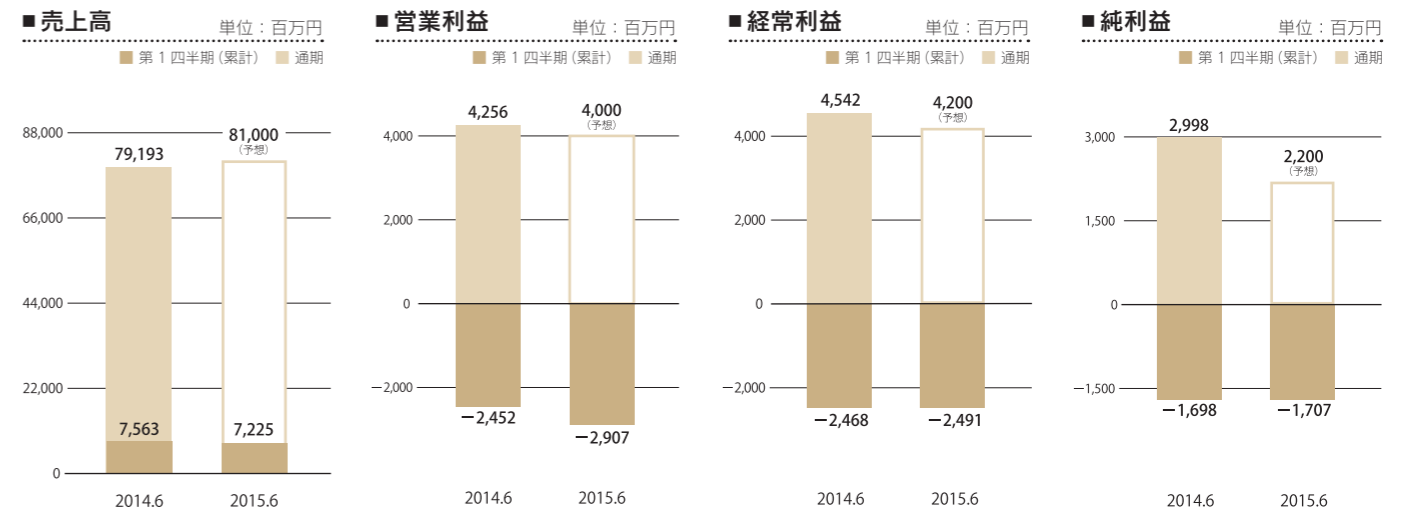
私たちの挑戦は、限りない。
より優れた技術、幅広い知識を求め続け、
一歩進んだ実現力をつかんでいく。

2015年6月期 第1四半期 連結決算ハイライト

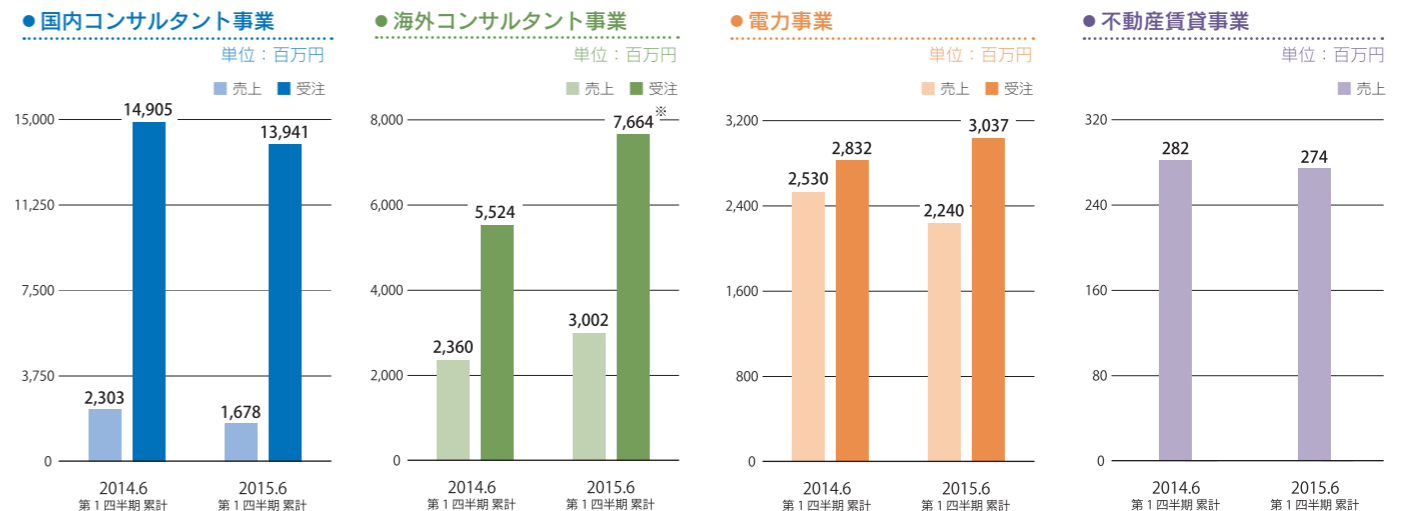
2015年6月期(第71期)第1四半期(2014年7月～9月)の日本工営グループの業績は、売上高7,225百万円で、営業利益段階で損失を計上しました。当社グループの事業は、受注の多くが官公庁および電力会社からのもので、納期が年度末(3月)に集中するという特徴があります。このため売上高の計上が特に1月～3月に集中する一方、費用は年間を通じて発生するため、例年、4月～12月に対応する四半期決算では損失を計上しています。

	2015年6月期第1四半期 (2014.7～2014.9)	前年同期 (2013.7～2013.9)	2015年6月期計画値
売上高(百万円)	7,225	7,563	81,000
営業利益(百万円)	-2,907	-2,452	4,000
経常利益(百万円)	-2,491	-2,468	4,200
当期純利益(百万円)	-1,707	-1,698	2,200
受注高(百万円) ※参考	24,644	23,267	80,000

※数値は四捨五入・切り捨て処理などの関係で、合計が合わない場合があります。



事業別売上高/受注高



※ 今期より NIPPON KOEI VIETNAM INTERNATIONAL CO., LTD. および PHILKOEI INTERNATIONAL, INC. の2社を連結子会社としたため、連結開始時の受注残 1,205百万円および427百万円を含めております。

目次

2015年6月期 第1四半期 連結決算ハイライト.....	03
社長インタビュー	04
News Gallery.....	06
日本ケニア友好ソンドウ・ミリウ公共図書館への支援活動がメセナアワード「優秀賞」を受賞.....	06
福島事業所第二機電棟が完成	07
デフットサル ワールドカップ アジア予選で風間社員が活躍.....	07



ナンバーワンへのこだわりを持って、

それぞれのフィールドで**顧客の期待に応える**こと

2014年9月に就任した有元新社長へのインタビューを通じ、
経営方針、今後の戦略、就任にあたっての抱負についてお伝えします。

Q1. 現在の事業環境をどのようにみていますか？

当社の事業は大きく3つの事業で構成されていますが、総じて順調に推移するとみています。国内コンサルタント事業は、震災復興需要は一巡したものの、国土強靱化基本計画や公共施設の長寿命化対策、東京オリンピックなどが追い風となり、当面好調が続くものと考えます。海外コンサルタント事業は、ODAを中心としています。新興国のインフラ需要は旺盛で、一定水準で安定した受注が期待できます。また、電力事業は電力会社の送電、変電、配電といった流通部門への

投資が当社の受注に関係しています。この部分は電力安定供給の根幹とも言える部分であり、震災後も一定の投資規模を維持しています。加えて、震災をきっかけに再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)を使った水力発電の更新・新設の引き合いが多く、短期的には問題ないと考えています。ただし、これらの状況が長く続くとは考えづらく、それぞれに手を打っていかねば成長はないと考えています。

Q2. 成長に向けた方針をお聞かせ下さい。

現在、新しい中期経営計画の策定に着手したところです。2020年度に売上高1,000億円規模の企業になることを中長期の目標としており、国内・海外・電力事業の各フィールドで挑戦を続ける必要があると考えています。国内コンサルタント事業では、中長期的には公共事業費が削減傾向にあるとみていますが、その中で事業の質的变化に対応し、技術陣の体制を強化することによってさらにシェアを高めていきたいと考えています。そのためには既存分野で技術を磨き、お客様第一の姿勢でよりよいサービスを提供していかねばならないと思います。海外コンサルタント事業は、売上高1,000億円を達成するための伸びしろとなる事業ですから、M&A(企業合併・買収)を含め現在のグローバル展開を強化し、日本のODA以外の市場にも積極的に参入していきたいと考えています。電力事業は2016年以降に電力システム改革が予定されているため、その動向を注視し、予測し、多様化する顧客に求められる技術開発と商品開発を行うなどの、手を打っていきたくと考えています。

当社にとって最も重要な経営資源は「技術」と「人財」です。「技術開発」と「人財育成」の2つを成長のエンジンと位置づけ、これらが相乗効果を生むことで、シェアの向上や数値目標の達成などが見えてくるとしています。

Q3. M&A(企業合併・買収)についてはどのようにお考えでしょうか？

8月に英国コンサルティング企業の買収を試みました。結果は成就にはいたりませんでした。今後もM&Aは前向きに検討したいと考えています。

現在新興国を中心に都市化が一段と進み、鉄道や都市開発などのインフラ整備需要が旺盛です。例えば当社が10年ほど前から注力してきた鉄道事業は昨年度の海外コンサルタント事業における受注額の3分の1を占めるまでになりました。この傾向は今後も続く

想定されますし、当社がこれまで海外コンサルタント事業で主な市場としてきたODAだけでなく民間資金を含めた巨額の資金が投入され始めています。鉄道が通れば駅舎や駅前開発などの建築需要が起こります。残念ながら日本では土木と建築のフィールドが分かれてしまっており、当社はこの需要を取り込むことができていません。一方で、海外では土木と建築の境目がなく、当社と同様の企業が建築分野の仕事を行うことが一般的です。今後この需要を取り込むためには実績と技術を持ったパートナーが必要です。将来的にグローバルコンサルタントとして成長していくために、国内外を問わず戦略的な提携を模索していきたいと考えています。

Q4. 最後に株主の皆さまにメッセージをお願いします。

社長就任にあたり、全社員に向けて「ナンバーワンの矜持を持とう」と呼びかけました。当社の事業は国内・海外を問わず国づくりの根幹を支えており、創業者のDNAを受け継ぎながら歴史と実績を積み重ねてきました。経営理念にあるように「誠意」「社会に貢献する」という志に共感した社員が集まっており、そのことを社長として改めて心強く思っています。一方で「ナンバーワン」と口にするのをどこかためらうような向きが社内にありました。経営陣を含め、社員一人一人がナンバーワンへのこだわりを持って、それぞれのフィールドで顧客の期待に応えることで結果は必ずついてくるものと信じています。

引き続き株主ならびに投資家の皆さまのご期待に応えられるよう、成長機会を確実に捉えながら一層の企業価値の向上を図ってまいります。皆さまにおかれましては、引き続き当社事業へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

日本ケニア友好ソンドウ・ミリウ公共図書館への支援活動がメセナアワード「優秀賞」を受賞

当社は、ケニア国のソンドウ・ミリウ水力発電所の工事の施工監理実施中の2001年に、地元の婦人会などと共に公共図書館を設立し、今日までこの図書館の運営を支援してきました。この活動がメセナアワード*の優秀賞



贈呈式でスピーチを行う有元社長

として選定され、11月21日に贈呈式が行われました。

ソンドウ・ミリウ水力発電所は当社が1980年代から計画・設計・施工監理に携わってきたプロジェクトです。その中で、「地元コミュニティに長期的にできる貢献を」との思いから、当社の技術者が公共図書館の開設と運営への支援を提案し、2001年6月に地元の婦人会が運営するソンドウ・ミリウ公共図書館が開設されました。

当時、ソンドウ・ミリウ地域の小学校では教科書や本が鍵付きの棚に保管されており、子どもたちが自由に使えない状況にありました。図書館の開設後は、貧

しさで教科書を買えない子どもたちや青年たちの学習の場としてだけでなく、文化活動の中心として活用され、地域になくてはならない施設となりました。

水力発電所の建設プロジェクトは2010年に終了しましたが、当社はその後も継続して支援活動を行っています。資金面の支援だけでなく、日本の芸術文化や生活習慣などを紹介する英語の本や世界の名作文学書の寄付、ナイロビ日本人学校との交流支援等の活動を行っています。

当社は今後も本事業を業務の枠を超えた継続的な企業の取り組みとして、支援を続け、ケニアの人々の豊かな生活に貢献していきます。

※メセナアワード：公益財団法人企業メセナ協議会が主催する、企業や企業財団、それらの連合体が取り組む、メセナ（芸術・文化振興による社会創造）活動を表彰する活動。本年24回目を数える。



ソンドウ・ミリウ図書館外観

福島事業所第二機電棟が完成



完成した第二機電棟

福島県須賀川市にある福島事業所では、水力発電機器・装置をはじめ、電気を安定供給するための変電機器・装置・システム、ダム管理システムを受注生産で製作しています。

電力市場においては現在、固定価格買取制度（FIT）を活用し、電力子会社や水力施設を保有する民間事業者による既存施設の更新需要が旺盛です。さらに近年では、地球にやさしい安定的な国産再生可能エネルギー源としての小水力発電に対する期待と優良な事業性から、小水力発電事業の新規参加者からの機器の更新・新設需要も増してきております。

このような環境の下、水力発電のコンサルティングから製造、据付、運転までのワンストップサービスを提供できる当社への引き合いが急増しています。このため、第二機電棟を新築して生産能力を増強することにいたしました。当社は、水力発電分野の長年にわたる技術とノウハウの蓄積がお客様のニーズに適合し、今後も優位に事業を推進することができると考えています。

デフフットサル ワールドカップ アジア予選で風間社員が活躍

日本工営 人事・総務部の風間社員は、デフフットサル*の日本代表として、8月にイランで行われたアジア大会に出場しました。アジア王者のイランに敗れましたが、チームで2位の全試合合計6点を挙げる活躍で、チームの準優勝に大きく貢献しました。

この結果、日本代表チームは来年行われる世界大会への出場権を獲得しています。

風間社員は7歳からサッカーを始め、ろう者サッカーの日本代表を経て、現在はフットサルの日本代表として日の丸を背負って活躍しています。

※デフフットサル：ろう者によるフットサル。試合中は補聴器の着用が禁止され、声による意思疎通が不可能なため、手話とアイ・コンタクトでコミュニケーションを取る。（コートの広さ、ルールは通常のフットサルと同じ）



シュートモーションに入る風間社員

■メセナアワード 2014 受賞者一覧

大賞	メセナ大賞	公益財団法人ギャラリーエークウッド [東京都]
優秀賞	川の手文化賞	アサヒビール株式会社 [東京都]
	華のアート賞	株式会社資生堂 [東京都]
	子どもクリエイティブ賞	株式会社電通 [東京都]
	ケニアで読みま賞	日本工営株式会社 [ケニア国]
特別賞	紅型めんそ〜れ賞	株式会社琉球銀行 [沖縄県]
	文化庁長官賞	トヨタ自動車株式会社 [東京都]

誠意をもってことにあたり、
技術を軸に社会に貢献する。